

2019年度 大人が支える！インターネットセーフティ推進事業

秋田県教育庁生涯学習

■ 事業概要

社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるよう、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」を、民間等との協働により、複数の取組方で推進する。

事業の重点

- ★利用の低年齢化・長時間化等に対応した保護者支援
- ★依存・トラブル等、困難を抱える児童生徒への支援
- ★持続可能な取組を支える地域人材への支援

■ 取組方策

(1) ネットパトロールと健全利用啓発事業

- ◎ 県内児童生徒のインターネット利用行動を抽出調査し最新の動向を把握
 - ➡ インターネットセーフティ推進事業全体の実効性向上を図る
- ◎ 不適切な利用行動のうち緊急性の高い事案は、個別調査・即時対応
 - ➡ 学校・関係課と連携しリスクレベルに応じた指導・支援を行う

○H29よりSIA(セーファーインターネット協会)に委託し、新たな仕組みで運用開始

○小・中・高・特支385校を対象に抽出調査(通年・4巡→簡易報告+定期報告)

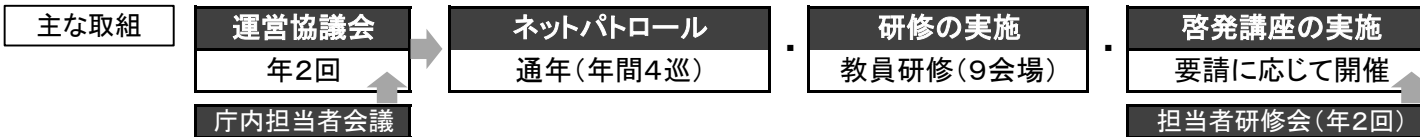
- * 問題投稿検知校数…のべ475校(小0、中264、高211、特支0)
- * 問題投稿検知数…1,214件(小0、中513、高701、特支0)
- * 問題投稿リスクレベル…[低]1,174/[中]40/[高]0(個人情報流布1,067、いじめ・中傷54、不法行為37、トラブル1、その他55)

○学校からの連絡・相談(FAXによる)…中学校2件、高校1件(いじめ・中傷2、その他1)

○地生研総会(9地区)でネットパトロール事業を紹介、学校に活用を呼びかけ

○要請に応じた啓発講座の実施…22市町村で102回、10,742人が受講

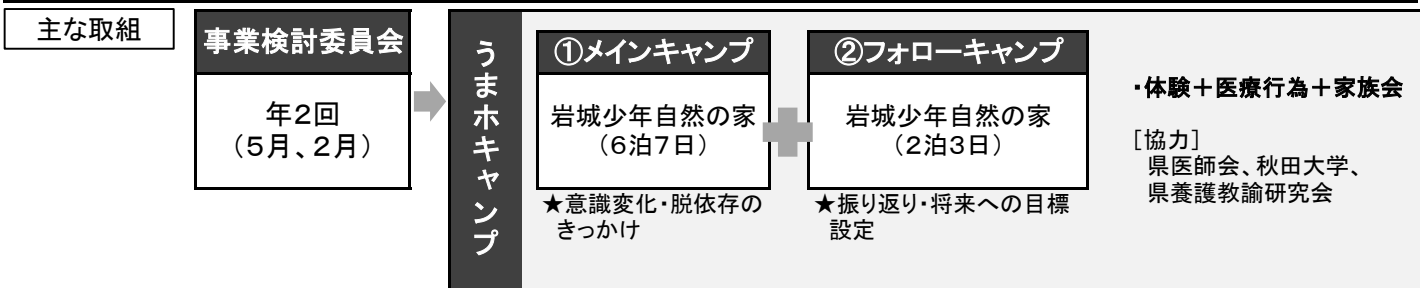
H30実績



- 低年齢化→小学生の利用行動注視 **H31以降**
- 問題投稿のリスクレベルに応じた適切な支援
- 啓発講座の対象は「就学前の保護者」にシフト

(2) 青少年教育施設を活用したネット依存対策事業

- ◎ ネット依存傾向の児童・生徒を対象にした長期宿泊体験プログラム(自然体験+認知行動療法)を実施
 - ➡ 参加者の変容<基本的生活習慣の確立・直接コミュニケーションの向上・ネット依存傾向からの脱却>



- 文科省委託事業(H28～) **H30実績**
- メインキャンプ5名参加(小3名、中2名)
 - ※県外から1名参加(仙台市)
- フォローキャンプ6名参加(メインキャンプ参加者4名)

- H31は文科省委託事業として継続 **H31以降**
- 文科省委託事業終了後
 - 県医師会との共催による継続実施を協議
 - 秋田大学、県養護教諭研究との連携

(3) 人材養成

主な取組 ※消費者行政強化事業を活用(県民生活課)

- ①「ネット利用の低年齢化」に対応した人材養成事業の実施
 - ・家庭教育支援チーム対象サポーター養成講座…県内2会場/3回/家庭教育支援チーム対象
 - ・保育士・幼稚園教諭等対象サポーター養成講座…県内2会場/2回/保育士・幼稚園教諭・保健師・行政職員・保護者等
- ②「ネット利用の低年齢化」に対応した保護者支援事業の実施…県内1会場/2回/未就学児とその保護者
- ③「フォローアップ講座」の実施…県内3会場/各1回/前年度までの地域サポーター養成講座修了者対象
- ④「指導者認定試験」の実施…秋田市/1回/サポーター養成講座修了者対象
- ⑤「指導者等研修会」の実施…秋田市/1回/指導者認定試験合格者対象

- 「ネット利用の低年齢化」の課題に取り組む地域人材の養成 **H31以降**
- 未就学児をもつ保護者を対象としモデル講座の実施
- 持続可能な取組を支える地域人材への支援